

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171400197		
法人名	株式会社 三栄		
事業所名	株式会社 三栄 グループホームすぎの子		
所在地	佐賀県唐津市巖木町岩屋1373番地1		
自己評価作成日	平成22年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成22年2月18日	外部評価確定日	平成22年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

声にならない思いも含めて利用者の心身状態の把握に努め、できる限り自立した生活を継続できるよう支援することで、笑顔ある生活を実現させる。このため、積極的に利用者の残存能力を活用し、生活リハビリに努めている。また、地域との交流を深めることで、社会的なつながりを維持し、利用者の生活を活性化させている。認知症介護に関する情報を発信し、認知症に対する理解や支援を地域に広めることで地域に貢献したい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

大きな窓とやさしい木の雰囲気の良い空間で、利用者の方はゆっくり楽しそうに過ごされている。職員がアコーディオンを弾きながら、歌ったり体操をしたりと元気な生活の場を提供している。一人ひとりの部屋には、職員手作りの大きな日課表が貼られ、生活のリズムを大切にしていることが窺える。認知症があっても可能性はいっぱい持っていると考え、いろいろなアプローチをしながら、その人らしい生活ができるように、場面の提供を考え支援している。管理者は、職員の教育は資質の向上につながることを意識し、研修に積極的に参加できるようにサポートしている。また、スタッフがにこやかに仕事ができることで、ホーム全体が明るくなると考え、働きやすい職場作りを心がけている。スタッフのチームワークもよく、利用者の方との自然な関わりの中で、一人ひとりの能力にあった役割を持った生活ができるように支援している。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(ユニットA) (事業所記入欄)	自己評価(ユニットB) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を作り、ホーム内に掲示したり、毎月発行しているホーム便りに掲載している。理念に基づいた介護方針を毎朝唱和し、浸透に努めているが、実際の介護現場で必ずしも実践できているとはいえない。また、介護方針に不足する部分もあるため、再検討の必要あり。	ホーム独自の理念を作り、ホーム内に掲示したり、毎月発行しているホーム便りに掲載している。理念に基づいた介護方針を毎朝唱和し、浸透に努めているが、実際の介護現場で必ずしも実践できているとはいえない。また、介護方針に不足する部分もあるため、再検討の必要あり。	「その人らしく、笑顔のある生活づくり」の理念を掲げ、理念の共有に向けて、管理者と職員が話し合い作成した、介護の5ヶ条を毎日唱和している。理念の具体化が日々のケアの意識付けとなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	道や商店で会えば気軽に挨拶し、地域の方とのコミュニケーションが取れるよう努めている。1年に4回の地域交流会開催や老人会行事への参加の他、地区清掃や配布物の当番等の役割も荷い、地域の一員として活動している。	道や商店で会えば気軽に挨拶し、地域の方とのコミュニケーションが取れるよう努めている。1年に4回の地域交流会開催や老人会行事への参加の他、地区清掃や配布物の当番等の役割も荷い、地域の一員として活動している。	年4回の地域交流会を開催し多くの方が参加される。地区の清掃など、地域への行事に参加し、地域での生活を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への参加、地域交流会や運営推進会議の開催などで認知症介護に関する理解を求めている。最近ではホームに対する理解が進み、積極的に支援して下さる方が増えた。	地域行事への参加、地域交流会や運営推進会議の開催などで認知症介護に関する理解を求めている。最近ではホームに対する理解が進み、積極的に支援して下さる方が増えた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催。家族、地域住民(老人会長、区長、民生委員ほか)、市町村担当者、介護相談員など様々な方の出席をいただき、ホームからの情報発信や高齢者介護に関する意見交換等を行っている。会議で出された意見はホーム運営にフィードバックしている。	2ヶ月に1度開催。家族、地域住民(老人会長、区長、民生委員ほか)、市町村担当者、介護相談員など様々な方の出席をいただき、ホームからの情報発信や高齢者介護に関する意見交換等を行っている。会議で出された意見はホーム運営にフィードバックしている。	定期的開催し、参加された方から積極的に意見が出る活発な会議となっている。地域の方から行事のアドバイスをもらい活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や福祉課の担当者が運営推進会議に参加している。また、日頃から密に報告相談をし、協力関係を作っている。	介護保険課や福祉課の担当者が運営推進会議に参加している。また、日頃から密に報告相談をし、協力関係を作っている。	事業を行っていく上で生じる、困ったり、分からないことなど、常に相談し担当者と一緒に考えていける関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない介護に取り組んでいる。禁止の対象となる具体的な行為を理解しつつも、状況により、玄関施錠やベット柵使用、つなぎパジャマの使用を行っている。その場合、あらかじめご家族に状況を報告し、了解を得ている。	身体拘束をしない介護に取り組んでいる。禁止の対象となる具体的な行為を理解しつつも、状況により、玄関施錠やベット柵使用、つなぎパジャマの使用を行っている。その場合、あらかじめご家族に状況を報告し、了解を得ている。	安全確保のために必要な方には、ベット柵やつなぎ服を使用している。身体拘束の弊害を理解し、必要最小限の拘束になるようこし、家族への説明や拘束時間記載などきちんと行っている。	身体拘束の弊害を理解し、安全上必要な方のみの拘束で必要な書類はきちんと整理されているが、デメリットを再認識し、入所者の安全を追求しながら支援していく一層の工夫と取り組みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で取り上げ、高齢者虐待に関する理解を深め、防止するよう努めている。日常の介護で言葉使いや声の調子に注意し、利用者の尊厳を傷つけないように努めている。	勉強会で取り上げ、高齢者虐待に関する理解を深め、防止するよう努めている。日常の介護で言葉使いや声の調子に注意し、利用者の尊厳を傷つけないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニットA) (事業所記入欄)	自己評価(ユニットB) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームの学習会や外部の研修で学んでいる。今までのところ、ホームが支援することで日常生活に支障はない。利用したことはない。	ホームの学習会や外部の研修で学んでいる。今までのところ、ホームが支援することで日常生活に支障はない。利用したことはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解除、改定については、契約内容や提供するサービス内容について家族に十分説明し、理解を得るようにしている。	契約の締結、解除、改定については、契約内容や提供するサービス内容について家族に十分説明し、理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へは面会時に会話を多くし、意見を聞きだすよう努めている。意見・要望が出された場合はその都度対応し、速やかに解決している。唐津市の介護相談員派遣事業を利用し、利用者の意見を聞いてもらっている。	家族へは面会時に会話を多くし、意見を聞きだすよう努めている。意見・要望が出された場合はその都度対応し、速やかに解決している。唐津市の介護相談員派遣事業を利用し、利用者の意見を聞いてもらっている。	家族が面会に来られた時に、近況や状態を報告し管理者だけではなくスタッフが声をかけ何でも言ってもらえる関係作りに努めている。家族からの要望は前向きに受け止め活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時、週1回のカンファレンス、月1回のミーティング等、日常的に意見交換の機会はある。必要なもの、有効なものについては、検討のうえ実施。	朝の申し送り時、週1回のカンファレンス、月1回のミーティング等、日常的に意見交換の機会はある。必要なもの、有効なものについては、検討のうえ実施。	定期的に会議を開催し、スタッフから活発に意見が出されている。出された意見については、話し合いを行い運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力、実績、やる気、希望に応じ、労働条件を設定しているが、完ぺきに職員が満足できる状況ではない。	職員の能力、実績、やる気、希望に応じ、労働条件を設定しているが、完ぺきに職員が満足できる状況ではない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会や勉強会の情報を公表し、希望者へは費用の補助や勤務調整を行っている。介護支援専門員や介護福祉士受験のため通信教育を受講する際は受講費用の一部を補助している。	講習会や勉強会の情報を公表し、希望者へは費用の補助や勤務調整を行っている。介護支援専門員や介護福祉士受験のため通信教育を受講する際は受講費用の一部を補助している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	唐津市内のグループホームで勉強会を立ち上げ、毎月1回開催される会に参加し、知識の習得や意見交換を行っている。また、佐賀県が主催する小規模事業所コーディネート事業にも参加し、受講者を派遣している。	唐津市内のグループホームで勉強会を立ち上げ、毎月1回開催される会に参加し、知識の習得や意見交換を行っている。また、佐賀県が主催する小規模事業所コーディネート事業にも参加し、受講者を派遣している。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニットA) (事業所記入欄)	自己評価(ユニットB) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前は面談を行い、利用者との会話や様子観察を通して困っていることや希望を探るように努めている。利用者の言葉を傾聴することで安心感を持っていただくように努めている。	利用前は面談を行い、利用者との会話や様子観察を通して困っていることや希望を探るように努めている。利用者の言葉を傾聴することで安心感を持っていただくように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前には家族との面談を行い、困っていることや介護に関する希望を聞いている。また、ホームの介護方針や運営に関する事項の説明を行い、双方が納得して利用できるようにしている。	利用前には家族との面談を行い、困っていることや介護に関する希望を聞いている。また、ホームの介護方針や運営に関する事項の説明を行い、双方が納得して利用できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、在宅介護支援事業所、医療機関等の情報をもとに、関係機関に協力を仰ぎながら、必要なサービスが受けられるよう支援している。	本人、家族、在宅介護支援事業所、医療機関等の情報をもとに、関係機関に協力を仰ぎながら、必要なサービスが受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力や希望に応じ、できることは自分でしていただくように努めている。職員がそばで見守ったり、一緒に活動したりすることで、信頼関係を築いている。	本人の能力や希望に応じ、できることは自分でしていただくように努めている。職員がそばで見守ったり、一緒に活動したりすることで、信頼関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活や心身の状況を密に報告することで、利用者に対する認識が職員と家族で同じにし、互いに協力できるように努めている。	ホームでの生活や心身の状況を密に報告することで、利用者に対する認識が職員と家族で同じにし、互いに協力できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	夜間を除き、面会に制限はなく、自由に出入りができるようにしている。面会時はゆっくりできるよう、イスやテーブル、飲み物を提供している。また、毎月写真や状況報告書を家族へ発送している。(希望される場合は、キーパーソン以外の家族にも発送)	夜間を除き、面会に制限はなく、自由に出入りができるようにしている。面会時はゆっくりできるよう、イスやテーブル、飲み物を提供している。また、毎月写真や状況報告書を家族へ発送している。(希望される場合は、キーパーソン以外の家族にも発送)	老人会の方が面会に来られたり、行きつけの散髪屋に出かけたりしながら、これまでの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂での席を決める際は、相性や個性を考慮している。職員も交じって、みんなで家事作業やレクリエーションを行うことで孤立を防ぎ、交流を深めるようにしている。	食堂での席を決める際は、相性や個性を考慮している。職員も交じって、みんなで家事作業やレクリエーションを行うことで孤立を防ぎ、交流を深めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニットA) (事業所記入欄)	自己評価(ユニットB) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、ボランティアで来てくださるご家族がいる。また、入院治療のため退去された方は、時折見舞いに行っていたところ、症状が軽快され、再入居された方もいる。要請があれば相談や支援に応じるようにしている。	契約終了後、ボランティアで来てくださるご家族がいる。また、入院治療のため退去された方は、時折見舞いに行っていたところ、症状が軽快され、再入居された方もいる。要請があれば相談や支援に応じるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の思いや希望を大事にし、言葉に表現されない思いをくみ取れるよう行動観察に努めている。把握した思い(家に帰りたい、…へ行きたい)には実現不可能なこともあり、すべて実現できてはいない。	一人一人の思いや希望を大事にし、言葉に表現されない思いをくみ取れるよう行動観察に努めている。把握した思い(家に帰りたい、…へ行きたい)には実現不可能なこともあり、すべて実現できてはいない。	天気が良い日は希望を聞き、ドライブや買い物などに外出したり、庭を散歩をしたり、一人ひとりの思いや希望を聞きながら本人の思いを大切に支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聞き取り調査や担当ケアマネの情報から、生活歴、病歴、好みの把握に努めている。	本人や家族からの聞き取り調査や担当ケアマネの情報から、生活歴、病歴、好みの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中で一緒に家事作業を行ったり、レクリエーションを提供したりと支援を行うなかで、心身状態や有する力を把握するよう努めている。把握した情報をもとにケアプランの検討を行っている。	毎日の暮らしの中で一緒に家事作業を行ったり、レクリエーションを提供したりと支援を行うなかで、心身状態や有する力を把握するよう努めている。把握した情報をもとにケアプランの検討を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン立案の際は利用者や家族の意向をもとに、利用者の状態や能力にあったプランを作成している。週1回カンファレンスを行い、計画作成担当者以外の職員も参加し、ケアプランの検討や見直しを行っている。	ケアプラン立案の際は利用者や家族の意向をもとに、利用者の状態や能力にあったプランを作成している。週1回カンファレンスを行い、計画作成担当者以外の職員も参加し、ケアプランの検討や見直しを行っている。	週1回、定期的にカンファレンスを行い、スタッフ全員で話し合い、計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々利用者ごとの記録を行い、申し送りや連絡ノートも活用しながら情報を共有している。気づきについてはアセスメントプランをあげ、状況変化に随時対応できるようにしている。	日々利用者ごとの記録を行い、申し送りや連絡ノートも活用しながら情報を共有している。気づきについてはアセスメントプランをあげ、状況変化に随時対応できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、入居者の状態・状況に応じ、柔軟にサービス提供を行っている。平成20年12月より、認知症対応型通所介護の事業を開始し、通所希望の方へも対応している。	可能な限り、入居者の状態・状況に応じ、柔軟にサービス提供を行っている。平成20年12月より、認知症対応型通所介護の事業を開始し、通所希望の方へも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニットA) (事業所記入欄)	自己評価(ユニットB) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加する、地域のボランティア活用、地域交流会開催など、地域との交流を図ることで、生活に彩りを添えている。	地域行事に参加する、地域のボランティア活用、地域交流会開催など、地域との交流を図ることで、生活に彩りを添えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医である宇都宮病院と密に連携をとりながら、利用者の健康管理を行っている。近距離であれば協力医に限らず、職員付き添いで希望の医療機関を受診している。	協力医である宇都宮病院と密に連携をとりながら、利用者の健康管理を行っている。近距離であれば協力医に限らず、職員付き添いで希望の医療機関を受診している。	希望する医療機関を受診している。定期通院はスタッフが通院援助を行い、検査などが必要な時は家族と話し合い家族が通院対応されるなど連携を持って対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調に変化があるときは、まずホームの看護職員へ報告し、対応を検討している。また、判断しづらい時は協力医の看護職員とも相談している。	利用者の体調に変化があるときは、まずホームの看護職員へ報告し、対応を検討している。また、判断しづらい時は協力医の看護職員とも相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームでの生活や既往症の情報を提供し、円滑に治療を受けられるよう配慮している。また、必要であれば、かかりつけ医の紹介状を手配する。入院中は面会に行き、利用者を励ましたり、洗濯物の世話をし、状態の把握に努めている。	ホームでの生活や既往症の情報を提供し、円滑に治療を受けられるよう配慮している。また、必要であれば、かかりつけ医の紹介状を手配する。入院中は面会に行き、利用者を励ましたり、洗濯物の世話をし、状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは入居時や体調悪化時に終末期のあり方について話し合いを行っている。必要に応じ主治医、家族、ホームの三者で話し合いを行い、治療方針を決定している。	家族とは入居時や体調悪化時に終末期のあり方について話し合いを行っている。必要に応じ主治医、家族、ホームの三者で話し合いを行い、治療方針を決定している。	身体状況を確認しながら、主治医と連携を持ち家族への説明と方針の共有を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、実践している。1年に1度は消防署から講師を招き、救急蘇生法の講習会を開いている。	緊急時のマニュアルを作成し、実践している。1年に1度は消防署から講師を招き、救急蘇生法の講習会を開いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練(年3回)や消火訓練(年1回)を行っている。職員間の緊急連絡網を作成。緊急避難場所は岩屋公民館としている。運営推進会議で地域の協力をお願いし、協力が必要な場合は区長へ連絡するよう取り決めている。	定期的に避難訓練(年3回)や消火訓練(年1回)を行っている。職員間の緊急連絡網を作成。緊急避難場所は岩屋公民館としている。運営推進会議で地域の協力をお願いし、協力が必要な場合は区長へ連絡するよう取り決めている。	定期的な避難訓練を実施し、訓練時は消防署の協力も得ている。緊急連絡網を作成し、連絡訓練も実施している。	現在、避難時は緊急出入り口までの訓練をされているが、外へ避難の訓練の実施も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価(ユニットA) (事業所記入欄)	自己評価(ユニットB) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員が常に心がけているが、徹底できていない面がある。時に慣れ慣れしい言葉になったり、否定的な言葉を言ったりする場面がある。	各職員が常に心がけているが、徹底できていない面がある。時に慣れ慣れしい言葉になったり、否定的な言葉を言ったりする場面がある。	人格の尊重について毎朝、朝礼で唱和し、各自が自覚できるようにしている。いい言葉使いは、ほめながら職員に意識付けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と密に関わり、話を傾聴したり、行動を観察することで思いや希望を汲み取れるように努めている。また、利用者に関いかけたり、確認することで、自己決定できる環境を作っている。	利用者と密に関わり、話を傾聴したり、行動を観察することで思いや希望を汲み取れるように努めている。また、利用者に関いかけたり、確認することで、自己決定できる環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や身体状況にあった生活実現のため、柔軟に対応するようにしている。しかし、利用者全員の希望通りにはなっていない。繁忙時は業務優先になりがちである。	利用者の希望や身体状況にあった生活実現のため、柔軟に対応するようにしている。しかし、利用者全員の希望通りにはなっていない。繁忙時は業務優先になりがちである。		
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	毎朝必要な方には更衣・洗面の介助を行う。外出や行事の時は更衣やお化粧を促している。出張理容もあるが、パーマや毛染めを希望される方は店へ送迎している。自信を持たれるよう、賛美の声かけを行っている。	毎朝必要な方には更衣・洗面の介助を行う。外出や行事の時は更衣やお化粧を促している。出張理容もあるが、パーマや毛染めを希望される方は店へ送迎している。自信を持たれるよう、賛美の声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は栄養、彩り、季節感を考慮し、偏らないように作っている。できる方には調理や片づけにも参加していただいている。また、職員も同じものを一緒に食べている。	献立は栄養、彩り、季節感を考慮し、偏らないように作っている。できる方には調理や片づけにも参加していただいている。また、職員も同じものを一緒に食べている。	盛り付けや片付けなど職員と一緒にいき、職員も一緒に食事をしながらさりげなく介助を行っている。	各自好きなテーブルで食事をされているが、廊下のテーブルが自分の場所で、玄関前のテーブルで食事をされている方もいらっしゃる。本人の好みの場所の問題もあると思われるが、食堂での食事を一緒に楽しむ事も検討が期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録し、常に栄養が確保できているか確認している。体調や嚥下状態に合わせ、形態や献立を変えている。場合によっては栄養補助食品を取り入れることもある。水分は1日1,000mlを目安に利用者に勧めているが、不足がちな方がいて、工夫が必要である。	食事量を記録し、常に栄養が確保できているか確認している。体調や嚥下状態に合わせ、形態や献立を変えている。場合によっては栄養補助食品を取り入れることもある。水分は1日1,000mlを目安に利用者に勧めているが、不足がちな方がいて、工夫が必要である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ、誘導、介助と利用者の力量にあわせ対応している。夜間は入歯を預かり、洗浄液に漬けている。	毎食後、声かけ、誘導、介助と利用者の力量にあわせ対応している。夜間は入歯を預かり、洗浄液に漬けている。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニットA) (事業所記入欄)	自己評価(ユニットB) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、個別に排泄パターンを把握、その方に合ったタイミングでトイレ誘導を行っている。極力紙オムツ類を使用しないで済むように、ポータブルトイレや失禁パンツを活用しながら支援している。	排泄チェック表を作成し、個別に排泄パターンを把握、その方に合ったタイミングでトイレ誘導を行っている。極力紙オムツ類を使用しないで済むように、ポータブルトイレや失禁パンツを活用しながら支援している。	入所前はおむつをされていた方も、排泄パターンの把握を行い、パンツへ変えられた方も多くいる。出来るだけトイレで排泄出来るように検討し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排便状況をチェックし、下剤の調整や腹部マッサージ・肛門への刺激などを行っている。便秘の方が多いので、水分補給や便通に良い食材を心がけている。レクリエーションで運動を取り入れている。	個別に排便状況をチェックし、下剤の調整や腹部マッサージ・肛門への刺激などを行っている。便秘の方が多いので、水分補給や便通に良い食材を心がけている。レクリエーションで運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ホームの都合で曜日・時間は決まっているが、場合によっては、入居者の希望に応じて入浴してもらっている。入浴拒否の方には声かけを工夫することで入浴が円滑に進むようになっている。両ユニットのお風呂を沸かし、空いているほうへ入っていただくことで、待ち時間をなくし、ゆったりできるようにしている。	ホームの都合で曜日・時間は決まっているが、場合によっては、入居者の希望に応じて入浴してもらっている。入浴拒否の方には声かけを工夫することで入浴が円滑に進むようになっている。両ユニットのお風呂を沸かし、空いているほうへ入っていただくことで、待ち時間をなくし、ゆったりできるようにしている。	希望に応じた入浴ができるようにしている。拒否される方には、トイレなどに立った時に声かけするなど工夫しながら、定期的に入浴ができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や状況に応じてマイペースに休息していただいている。興奮が強い方で休息が取れない時には医師の診断を仰ぎ、安心して休息できるようにしている。	個々の生活習慣や状況に応じてマイペースに休息していただいている。興奮が強い方で休息が取れない時には医師の診断を仰ぎ、安心して休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院や薬局と連携をとり、知識習得に努めている。薬の説明書をファイルし、職員が随時参照できるようにしている。状態に変化がある時は、まず看護職員に報告、看護職員から病院へ相談し、指示をうけるようにしている。	病院や薬局と連携をとり、知識習得に努めている。薬の説明書をファイルし、職員が随時参照できるようにしている。状態に変化がある時は、まず看護職員に報告、看護職員から病院へ相談し、指示をうけるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業やレクリエーションなどを通し、利用者が活躍できる場面を作るように努めている。季節ごとの行事や誕生会、地域交流会、地域行事への参加、ドライブなどを通して楽しみごとを作り出している。	家事作業やレクリエーションなどを通し、利用者が活躍できる場面を作るように努めている。季節ごとの行事や誕生会、地域交流会、地域行事への参加、ドライブなどを通して楽しみごとを作り出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や地域行事への参加、ドライブ、買い物など外出の機会を設けている。自由に外出できればよいと思うのだが、安全確保の点から職員の付き添いは欠かせないため、個々の希望に対応できてはいない。	散歩や地域行事への参加、ドライブ、買い物など外出の機会を設けている。自由に外出できればよいと思うのだが、安全確保の点から職員の付き添いは欠かせないため、個々の希望に対応できてはいない。	近くの公民館行事に参加したり、温泉に出かけて歌謡ショーを楽しむなど、気分転換に外出できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価(ユニットA) (事業所記入欄)	自己評価(ユニットB) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどのの方がホームで預かり金を管理している。管理能力や本人の希望により、ご自分で管理されている方や、必要な額だけ預かり金から渡す方がいる。買い物希望される場合は、職員付き添いで出かける。	ほとんどのの方がホームで預かり金を管理している。管理能力や本人の希望により、ご自分で管理されている方や、必要な額だけ預かり金から渡す方がいる。買い物希望される場合は、職員付き添いで出かける。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される時は電話を使っていただいたり、代筆で手紙を書いたりする。	希望される時は電話を使っていただいたり、代筆で手紙を書いたりする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	草花や置物で季節感を出すようにしている。窓やカーテンの開閉で温度や光の調整をしている。空調は暖めすぎ、冷えすぎ、乾燥に注意し、随時調整している。職員の足音・声も穏やかになるよう努めているが、時に騒々しいときがある。	草花や置物で季節感を出すようにしている。窓やカーテンの開閉で温度や光の調整をしている。空調は暖めすぎ、冷えすぎ、乾燥に注意し、随時調整している。職員の足音・声も穏やかになるよう努めているが、時に騒々しいときがある。	玄関には、季節を感じられる、お雛様が飾られ、花や置物で過ごしやすい空間作りをしている。居間には床暖房があり、サッシは二重サッシが使われ、温かい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席は希望や状況により決め、利用者それぞれが落ち着いて過ごせるように努めている。玄関にベンチ、居間にはソファを設置し、思い思いの場所ですごしていただいている。特に平成21年に増築した玄関ホールは、外を見ながらのおしゃべりの場となっている。	食堂の席は希望や状況により決め、利用者それぞれが落ち着いて過ごせるように努めている。玄関にベンチ、居間にはソファを設置し、思い思いの場所ですごしていただいている。特に平成21年に増築した玄関ホールは、外を見ながらのおしゃべりの場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からタンス、冷蔵庫、テレビ、仏壇等を持ち込んでいる方もいる。それらを活用し、居心地よく生活できるよう工夫している。ただし、安全確保のため、あまり物品が増えすぎないように注意している。	自宅からタンス、冷蔵庫、テレビ、仏壇等を持ち込んでいる方もいる。それらを活用し、居心地よく生活できるよう工夫している。ただし、安全確保のため、あまり物品が増えすぎないように注意している。	居室への持ち込みは自由で、仏壇や家族の写真等好きなものが置かれている。ベットは畳ベットを使用し、昼間はふとんをたたんで座れるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり設置、段差解消、補助器具の利用、居室やトイレ入り口には目印など、できるだけ自立した行動ができるように工夫している。また、生活のあらゆる場面で利用者ができない部分のみを支援し、できる部分は見守りを行うように努めている。	手すり設置、段差解消、補助器具の利用、居室やトイレ入り口には目印など、できるだけ自立した行動ができるように工夫している。また、生活のあらゆる場面で利用者ができない部分のみを支援し、できる部分は見守りを行うように努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果			
		ユニットA	ユニットB	↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の	
				2. 利用者の2/3くらいの	
				3. 利用者の1/3くらいの	
				4. ほとんど掴んでいない	
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある	
				2. 数日に1回程度ある	
				3. たまにある	
				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が	
				2. 利用者の2/3くらいが	
				3. 利用者の1/3くらいが	
				4. ほとんどいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が	
				2. 利用者の2/3くらいが	
				3. 利用者の1/3くらいが	
				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が	
				2. 利用者の2/3くらいが	
				3. 利用者の1/3くらいが	
				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が	
				2. 利用者の2/3くらいが	
				3. 利用者の1/3くらいが	
				4. ほとんどいない	

項 目		取 り 組 み の 成 果			
		ユニットA	ユニットB	↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が	
				2. 利用者の2/3くらいが	
				3. 利用者の1/3くらいが	
				4. ほとんどいない	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と	
				2. 家族の2/3くらいと	
				3. 家族の1/3くらいと	
				4. ほとんどできていない	
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように	
				2. 数日に1回程度ある	
				3. たまに	
				4. ほとんどない	
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている	
				2. 少しずつ増えている	
				3. あまり増えていない	
				4. 全くない	
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が	
				2. 職員の2/3くらいが	
				3. 職員の1/3くらいが	
				4. ほとんどいない	
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が	
				2. 利用者の2/3くらいが	
				3. 利用者の1/3くらいが	
				4. ほとんどいない	
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が	
				2. 家族等の2/3くらいが	
				3. 家族等の1/3くらいが	
				4. ほとんどいない	